



広建土第 438 号
平成 20 年 10 月 7 日

国土交通省 道路局長 様

福岡県八女郡広川町長 渡 邊 元 喜



今後の道路行政についての意見・提案について

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

福岡県八女郡広川町

・道路特定財源の一般財源化について(意見)

2009年度から道路特定財源が一般財源化することに決まっているが、「道路整備に使わないのであれば特定の利用者に課税するのはおかしい。

一般財源として使う税額については、税の公平性からしても納税者が納得がいくような税制にすべきである。」

・歩道整備及び交差点改良事業の推進

今日まで道路整備については、幹線道路、補助幹線道路等の整備に力を注いできたところである。しかし交通弱者といわれる子供、老人が安心して通行できる歩道の設置が遅れている。町民の安全を守ることが道路行政施策として優先すべき課題だと考えております。

また、事故率の高い交差点及び渋滞の原因をなしている交差点を重点的に整備することにより、事故減少、渋滞緩和を図るための交差点改良を積極的に行うべきだと考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

2-①地域の現状と抱える課題

様式②

福岡県八女郡広川町

○現状

・道路整備に時間がかかりすぎる。
一定区間の道路整備に10年以上も費やしている為、住民からも道路行政に対して不信感が生まれる。

・道路維持補修の問題

昭和40年代から50年代に整備した橋梁、舗装が耐用年数を超え老朽化が進んでいるが、全面改修となると多大な費用を要するため部分補修で凌いでいるが今後も維持補修は行っていかなければならないが地方自体の財源だけでは困難である。また近年の大地震に対応するための橋梁耐震化事業についても同様である。

○課題

・用地取得に時間がかかりすぎる。
道路に限らずインフラ整備には用地の確保がその事業の進捗に左右される。この用地確保をもっとスムーズに出来るような「法律」の整備はできないか。

・橋梁の架替、耐震補強、及び舗装補修工事に国庫補助制度の創設。
このような維持、補修工事及び耐震化事業に道路特定財源を充てるべきではないか。

今後の道路行政についての意見・提案
2-②地域の目指すべき将来像

様式③
福岡県八女郡広川町

公共交通網が整備されていない我が町にとって移動手段が自動車に限定される。その為に生活幹線道路網の整備は非常に重要な課題である。

幹線道路の渋滞緩和、通学道路の歩道整備、広川ICアクセス道路整備についてはまだまだ不十分であり、引き続き整備を行う必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点時事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④

福岡県八女郡広川町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策 ・地域活性化向上	・主要地方道三潆上陽線歩道設置 本路線は幅員が6.0mで路肩が狭く、歩道が無い ため歩行者、自転車の通行が危険な状況である。 そのためにはこの県道に歩道を設置しなければ、 児童生徒、及び高齢化していく町民の安全が確保できない ・三潆上陽線バイパス早期完成	・通学の安全及び事故減少が図られる。 平成19年度も中学生が飛び出し事故で意識不明の 重態事故が発生した。過去にも歩行者の死亡事故 が発生しているが、歩道設置により通学路の安全と 事故減少が図られる。 ・平成10年広川ICが開通し10年を経過したが、西側 のアクセス道路整備がまだ完成していない。 このバイパスを国道3号と国道209号を結ぶことに よりインターチェンジを核とした物流拠点となり、流 通団地の販売促進、新たな工業団地の創設が図 れる。	